

個 別 の 人 権 課 題			インターネットによる人権侵害		
校 種	中学校	本 時 に 関 わ る 3 つ の 側 面	知 識 的 側 面	◎	
対 象 学 年 等	第3学年		価 値 的 ・ 態 度 的 側 面	○	
教 科 等	社会		技 能 的 側 面		
単 元 名	新しい人権				

1 単元の目標及び計画

(1) 単元の目標

- ア 日本国憲法の役割を、個人の尊厳と基本的人権の尊重の考え方を中心に理解する。
- イ 法の支配の考え方や立憲主義に基づいて政治が行われることの意義について多面的・多角的に考察し、現代社会の課題について公正に判断する力を養う。
- ウ 国民主権を担う公民として、協力し合うことを大切にしていこうとする態度を養う。

(2) 単元の計画

- 1 次・・・新しい人権（本時を含む）
- 2 次・・・グローバル社会と人権

2 学習指導要領等の該当箇所

中学校学習指導要領・第2章・第2節社会・第2 各分野の目標及び内容・〔公民的分野〕

2 内容 C 私たちと政治
(1) 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則
対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 次のような知識を身に付けること。
(ア) 人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解すること。
(イ) 民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解すること。
(ウ) 日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについて理解すること。
イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
(ア) 我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現すること。

また、「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説社会編」の第2章第2節の「公民的分野の目標、内容及び内容の取扱い」では、「抽象的な理解にならないように、日常の具体的な事例を取り上げ、基本的人権に関連させて扱い、権利相互の関係や人権をめぐる諸課題についても理解できるようにする」ことが示されています。

3 本時の目標

新しい人権と日本国憲法との関わりについて理解するとともに、具体的な事例を通して権利相互の関係について多面的・多角的に考察し、表現する。

4 人権教育との関わり

この単元では、日本国憲法における基本的人権の尊重の考え方などについて学習する中で、個別の人権課題の一つである「インターネットによる人権侵害」に関連する内容を取り扱います。具体的には、社会の変化に伴って認められるようになってきた新しい人権の一つであるプライバシーの権利について、公的機関や企業に個人情報や慎重に管理することを義務付ける制度の意義について理解を深めたり、具体例を通してプライバシーの権利と他の権利との関係について考えたりすることを大切にしています。

5 本時で育てたい3つの側面

知 識 的 側 面	人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識 自由、責任、正義、平等、尊厳、権利、義務、相互依存性、連帯性等の概念への理解
価値的・態度的側面	人権の観点から自己自身の行為に責任を負う意欲や態度

6 本時の学習過程

学習過程等	人権教育との関わり等	資料等
<p>【前時の学習内容を振り返ろう。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の発展や情報化の進展に伴って、日本国憲法には直接的には規定されていない権利が主張されるようになってきた。 ・新しい人権には「プライバシーの権利」や「環境権」、「知る権利」などがある。 <p>【課題】新しい人権の一つである「プライバシーの権利」はどのように発展し、現在、どのような課題が指摘されているのだろう。</p> <p>■学習活動</p> <p>【プライバシーの権利はどのように発展してきたのだろう。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーの権利とは個人の私生活に関する情報をみだりに公開されない権利のことである。 ・日本国憲法 13 条の幸福追求権等を根拠として主張されるようになってきた。 ・マスメディアやインターネットの普及による情報社会の中で、新しい人権として定着しつつある。 ・2003 年に個人情報保護法が成立し、それまで国や地方自治体等の公的機関に課していた個人情報保護の義務が民間事業者にも拡大された。 <p>■学習活動（個人→グループ）</p> <p>【プライバシーの権利と他の権利との関係について、具体例を基に考えてみよう。】</p> <p>(例) 芸能人 A の私生活の情報を掲載した本が出版されることに対して、A がプライバシーの権利の侵害であるとして本の出版の差し止めを求めて訴訟を起こしたが、出版会社は、本の出版は「表現の自由」の権利であると反論した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーの権利と表現の自由の権利が対立している。 ・過去に実際に裁判で争われた事例がある。 <p>【本に掲載してもよいと考えられる情報と掲載すべきでないと考えられる情報の違いとは何か、グループで話し合おう。】</p> <p>【プライバシーの権利より表現の自由が優先されるとしたらどのような場合か、グループで話し合おう。】</p> <p>【プライバシーの権利と表現の自由の関係についてまとめて発表しよう。】</p> <p>【プライバシーの権利に関わって、その他にどのような課題があるか考えよう。】</p> <p>(例) インターネット上には人の名誉を傷つける差別的な言論が書き込まれていたり、プライバシーの侵害にあたる様々な個人情報が掲載されたりしている。</p> <p>(例) 情報の複製による知的財産権の侵害も問題である。</p>	<p>【知識的側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識 <p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報化が進む中で、プライバシーの権利を自分の情報をコントロールする権利として、より積極的に捉える考え方が広がってきていることに触れる。 <p>【知識的側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由、責任、正義、平等、尊厳、権利、義務、相互依存性、連帯性等の概念への理解 <p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の権利と社会全体の利益が衝突する場合もあることに触れ、その調整をどのように図っていけばよいか考えることが大切であることに気付かせる。 <p>【技能的側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権の観点から自己自身の行為に責任を負う意欲や態度 <p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中でインターネット等をどのように使用しているか振り返らせることで、自分も被害者・加害者のどちらにもなりうる可能性があることに気付かせ、使用について責任ある行動が必要であることを認識させる。 	
<p>【まとめ】プライバシーの権利は情報化の進展に伴って主張されてきた新しい人権の一つであり、表現の自由との調整やインターネット上で見られる様々なプライバシーの侵害の問題を解決していくことが課題である。</p>		